

埼玉県

定数：14名

立候補者数：18名



氏名 古澤 浩生

都道府県士会 埼玉県

年齢 50

勤務先名称 リハビリテーション天草病院



氏名 井上 和久

都道府県士会 埼玉県

年齢 50

勤務先名称 埼玉県立大学保健医療福祉学部

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

2016年～日本理学療法士協会代議員

地域医療構想、地域包括ケアの推進を踏まえ、理学療法士の未来を創造していくために、臨床家として引き続き活動していきたいと考えております。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

2003. 7～2005. 6：埼玉県理学療法士会（理事・東部ブロック）
 2005. 7～2009. 6：埼玉県理学療法士会（理事・学術・教育局長）
 2009. 7～2013. 6：埼玉県理学療法士会（理事・副会長）
 2009. 7～2014. 3：日本理学療法士協会・代議員
 2010. 5～2011. 6：生活環境支援理学療法研究部会・協力員
 2010. 12～2015. 3：第49回日本理学療法士協会全国学術研修大会
 準備委員長
 2011. 7～2013. 6：生活環境支援理学療法研究部会・運営幹事
 2011. 8～2013. 3：第31回関東甲信越ブロック理学療法士学会・副会長
 2014. 6～2021. 3：日本地域理学療法学会・運営幹事
 2015. 6～2021. 3：日本予防理学療法学会・運営幹事
 2018. 7～2021. 3：日本地域・支援工学・教育合同理学療法学会
 学術大会2020・合同学術大会長
 2020. 6～現在：日本理学療法士協会・代議員
 2021. 4～現在：日本地域理学療法学会（理事・副理事長）
 2021. 6～現在：日本理学療法学会連合（財務委員長）

<立候補趣旨>

今回立候補に至った経緯として、前回の選挙同様我々理学療法士が社会に貢献し活躍することが非常に重要な責務と感じたため立候補させていただきました。
 現在様々な事業が展開されていますが日本理学療法士協会として、より重要な指針（職能的な方向性）を示すことが重要と考えています。また、理学療法士の活動の場を広げ理学療法士が国民に対してより貢献できる機会を拡大し、少しでも関わる事が出来ればと思い立候補させていただきましたので何卒宜しくお願い申し上げます。



氏名 南本 浩之

都道府県士会 埼玉県

年齢 57

勤務先名称 春日部厚生病院



氏名 染谷 和久

都道府県士会 埼玉県

年齢 46

勤務先名称 霞ヶ関南病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会役員歴】

- ・2005～2009年 (一社) 埼玉県理学療法士会 理事
- ・2015～2017年 (公社) 埼玉県理学療法士会 理事
- ・2017年～現在 (公社) 埼玉県理学療法士会 会長
- ・2015年～現在 (公社) 日本理学療法士協会 代議員
- ・2017年～現在 (公社) 日本理学療法士協会 関東甲信越ブロック協議会 委員

【立候補の趣旨】

2017年6月より埼玉県理学療法士会会長として様々な取組みを行ってまいりました。特に会員皆様からの意見聴取に基づく士会運営システムを構築し、会員のための士会運営が出来るよう取り組ませていただいております。士会員の専門性向上が図れ、そして相互のコミュニケーションを高め新しいビジネス機会に繋がるよう努めてきました。また、理学療法士の発展を推進していくため他職種連携を進め、政策提言書や要望書の提出、地域社会課題への取組みなど、会員の皆様の協力のもと認知度や地位向上に尽力させていただいております。

今後、理学療法は大きな変革に迫られる時代となることが予想されます。理学療法士に対する国や都道府県、市町村、他の職能団体からの期待感も大きくなってまいります。さらなる理学療法士の地位向上には、組織力の強化は非常に重要な事と思っております。そのためには、会員皆様のご協力と協会・士会の体制を強化することが重要と思っております。会員の皆様と一緒に理学療法(士)が、さらに発展していけるよう、士会と協会の関係性をさらに強固にしていく体制構築や埼玉県理学療法士会会員の声を協会運営に反映できるように努めていきたいと思っております。今までの50年で得た知識や技術、協会や士会の活動を基盤に、この先の理学療法を盤石な体制へと導くことを目指し、今後も取り組みたいと思ひ、立候補をさせて頂きました。皆様何卒よろしくお願い申し上げます。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会役員歴】

- 2020年～現在 日本理学療法士協会 代議員
- 2021年～現在 日本予防理学療法学会 評議員
- 2021年～現在 日本理学療法管理学会 評議員
- 2019年～2021年 理学療法標準評価作成委員会
- 2021年～2023年 理学療法標準評価推進運営部会

【立候補趣旨】

地域共生社会の実現に向けて、理学療法士には多くの役割が期待されています。地域包括ケアにおける自立支援においては、リハビリ専門職が不在の介護事業所や予防事業等を担う行政職の支援、地域住民への働きかけや後方支援など、保険制度の枠を超えた活躍が求められています。一方で、我々の基盤である医療・介護における質を向上し、医療機関や施設等において地域のリハ資源として活躍することも重要です。

私は(公社)日本理学療法士協会事務局へ2013年より2年間出向し、診療報酬・介護報酬・地域支援事業に関する業務を担ってまいりました。その後も、介護保険分野におけるリハビリテーションのあり方や地域リハビリテーション支援体制の構築など、地域包括ケアに資する研究事業や教育啓発等に従事しております。これら経験を活かし、地域を支える理学療法士の新たな役割の創出・拡大に向けた協会事業がより充実するよう努めて参ります。ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



氏名 赤坂 清和

都道府県士会 埼玉県

年齢 57

勤務先名称 埼玉医科大学保健医療学部



氏名 杉本 諭

都道府県士会 埼玉県

年齢 57

勤務先名称 東京国際大学

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

皆さま、こんにちは。埼玉医科大学の赤坂清和でございます。埼玉県理学療法士会の理事として通算で8期16年間、広報局、事業局、學術局、教育局において局長を担当させていただきました、それぞれの立場にて成果を出して参りました。昨年、埼玉県理学療法士会は関東甲信越ブロック理学療法学会の主管を務めるとともに、創立50周年の記念式典を開催し、埼玉県内の医師会や看護師会をはじめとして多くの団体にアピールすることが出来たと考えています。私は埼玉県理学療法士会の理事の一人として、これらのイベントを支えることが出来ました。また現在、教育局長として生涯学習などを担当する理事を務め、生涯学習に関する研修会を開催するだけでなく、埼玉県理学療法士会の会員が生涯学習のどの段階まで履修できているのかについて、部局員と連携を取りながら調査し、高いハードルとなっている課題について分析して、学会などでの発表や報告をまとめるなどのフィードバックを会員へ届ける取り組みを実施しています。また、私の所属学会である日本スポーツ理学療法学会では、第10回学会大会会長として今年1月にさいたま市にて開催し、1,000名を超える参加者にご参集いただき、多くの仲間を支えられながら盛会に導くことが出来ました。

さて現在、理学療法士を囲む環境は必ずしも良好とはいえず、待遇と社会地位は依然として満足出来るものではありません。理学療法士の給与や診療報酬における評価の低さ、国際的そして時代的に遅れを見せている理学療法士養成教育、分科学会の法人化と理学療法学会の学術の推進など多くの新しい課題を抱えている状況であると考えています。一方で日本全体として、漸くコロナ禍による閉鎖的な雰囲気から脱出しはじめていて、社会情勢は依然として円安になっているものの、政府による貯蓄依存から投資への誘導により、社会は大きく動きはじめているように感じています。私は、このような機会に乗じて、理学療法士を取り巻く諸問題に対して行動を起こすことが重要であると考えています。微力ではありますが、多くの皆さまからの意見を吸い上げ、ご指導ご鞭撻をいただきながら、皆さまとともに課題の解決に向けて取り組んで参りたいと考え、2024年代議員選挙に立候補させていただきました。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

協会・士会役員歴：
 日本理学療法士協会代議員（東京）2018年4月～2021年3月
 埼玉県理学療法士学会評議員 2021年4月～
 日本理学療法士協会代議員（埼玉）2022年4月～
 埼玉県理学療法士会理事 2023年6月～

立候補の趣旨：
 現在、理学療法士は多方面で活躍が見られており、今後も更に職域拡大に向けた取り組みが必要であると思います。
 私は日本理学療法士協会の代議員、埼玉県理学療法士会の理事を務めさせていただいてありますが、国の施策に応じた日本理学療法士協会の動向を踏まえ、埼玉県理学療法士会がどのように取り組む必要があるのか、そして、県内の理学療法士の意見をどのように日本理学療法士協会に伝えていけば良いのかを考えてきました。これからの理学療法を背負って立つ若い理学療法士の方が、より一層やりがいを持って仕事ができるよう、微力ながらお手伝いさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



氏名 大沼 亮

都道府県士会 埼玉県

年齢 36

勤務先名称 目白大学保健医療学部



氏名 駒井 敦

都道府県士会 埼玉県

年齢 34

勤務先名称 霞ヶ関南病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

初めて立候補させていただきます。大沼と申します。士会においては、学術局の編集部員として活動し、研究ゼミ活動など若手会員の方の支援活動に携わらせていただいております。また、臨床においては長く老健で地域とのかかわりを持ち、理学療法士の必要性や役割の重要性を強く感じました。現在は養成校教員として理学療法士の未来に、微力ながら貢献していきたい思いを持っています。昨今では、医療・介護報酬の改定や、理学療法士の職場環境など、多くの課題が存在しています。これらを担う若い世代の方の声を聞かせていただき、皆様の意見を多く届けられるように役立ちたいと思い、立候補させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会役員歴】
 職能局 医療保険部員（2016～2021）、地域包括ケア推進部員（2020～）
 業務推進部員（2023～）、地域包括ケア推進部長（2023～）
 教育局 認定・専門研修部員（2019～）、
 登録・認定・専門理学療法士管理部員（2021～）、後期研修部長（2021～2023）

【立候補の趣旨】

この度、日本理学療法士協会の代議員に立候補しました駒井敦と申します。私は、2016年から職能局医療保険部をはじめ、複数の部局で県士会活動をさせていただいております。県内の多くの先輩・仲間とともに活動していく中で様々な経験をさせていただき、理学療法士としての視野を広めることができました。現在、職場では地域リハビリテーション・ケアサポートセンターとして、圏域内市町村や包括さん等の支援業務を行っています。また、県士会活動では地域包括ケアに関与するリハ職育成研修を中心に研修会の企画・検討を実施しています。両者の立場から地域包括ケアシステムの推進する地域リハビリテーション活動となるように、県士会会員のみならずとも住民・市町村支援がしっかりと行える体制構築に向けて取り組んでいます。理学療法士の国家資格取得者数も20万人を超え、理学療法士としての働き方も多様になってきている中、今後も理学療法士を取り巻く環境・情勢が激しく変化していくと思います。先人が創り上げてきた今までを踏まえて、会員の半数以上を占める20～30代の方も一緒に多様な働き方の推進やこれからの県士会・協会の活動をより一層盛り上げていきたいと思っております。若輩者ではございますが、微力ながら尽力させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



氏名 佐々木 和人

都道府県士会 埼玉県

年齢 66

勤務先名称 ビッグスマイルリハビリセンター



氏名 馬崎 昇司

都道府県士会 埼玉県

年齢 41

勤務先名称 霞ヶ関南病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

1. 役員歴

a. 公社) 埼玉県理学療法士会
 老人成人福祉部長 (H元年, 2年度), 事業局長 (H3, 4年度)
 副会長 (H5, 6年度), 渉外局長 (H7, 8年度)
 事業局長 (H9, 10, 11, 12年度), 副会長 (H13, 14, 15, 16年度)
 会長 (H17, 18年度), 副会長 (H21, 22年度)
 ○監事 (H19, 20年度) ○相談役 (令和元年~現在)

b. 公社) 日本理学療法士協会
 社会局保健福祉部部長 (H11, 12年度) 社会局保健福祉部副部長 (H13, 14年度)

2. 立候補趣旨

処遇改善手当てに理学療法士 (以下PTと略す) が対象になったのは、大きな進歩である。日本理学療法士協会 (以下協会), 組織内参議院議員の功績は大きい。対象者が看護師からパラメディカルまでひろがったが、元々、組織内参議院議員がPTの収入が上がっていない現状を訴え、できたものと聞く。PTは私になった頃は、2千人であったが、現在20万人が存在し、毎年1万人以上の新卒者がでる。需要と供給のバランスに変化が起こった。私は四半世紀前から、この状態を回避するために、自浄作用を訴えてきたが、力及ばず、現在に至った。今後は20万の力を結集させ、職域拡大の必要であると考えている。しかし、私は66歳PTの平均年齢の倍、若いPTの視点と立場で問題を考えニーズを特定することが重要だが、若いPT達が、何を考え、望むのか、今一歩わからない。若いPT自身で一人一人のクリエイティブな発想を引き出し、ニーズは何なのか? それを解決する方法は? 頭を柔軟に話し合えるシステム作りをし、今までに考えられなかった視点と手法で職域拡大に取り組み、協会と士会と実現したい。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会役員歴】

2012年	第21回	埼玉県理学療法学会	副準備委員長
2013年	第22回	埼玉県理学療法学会	準備委員長
2015年	第24回	埼玉県理学療法学会	学会相談役
2012年~2015年		埼玉県理学療法学会	評議員
2023年~現在		埼玉県理学療法士会	理事 (職能委員会担当)

【立候補趣旨】

この度、代議員に立候補しました馬崎昇司 (ばさきしょうじ) と申します。川越市の霞ヶ関南病院にてリハビリテーション部長を務め、入院・在宅の臨床と管理業務を兼務し法人の組織運営に従事しています。埼玉県理学療法士会では2006年よりブロック運営や職能局医療保険部員として活動し、その後2012年より埼玉県理学療法学会にて準備委員長、相談役、評議員を4年間務めました。また、昨年からは埼玉県理学療法士会の理事を拝命し、令和6年能登半島地震では災害担当として士会員の現地支援の派遣・調整業務にも携わっています。

我々、理学療法士をとりまく環境は、給与面も含め大変厳しい状況に立たされており、協会では組織率低下も大きな課題となっています。協会員の平均年齢は35歳と若い組織であり、人材育成・組織力強化は大きなテーマです。

理学療法士を魅力ある生業に発展させられるように「生涯学習の推進」と「会員相互のつながり (人的ネットワーク) 強化」に尽力し、若い会員がやりがいを持って働きながら理学療法の質向上を目指せるように、一緒に歩んでいきたいと考えています。ご支援の程、どうぞよろしくお願いいたします。

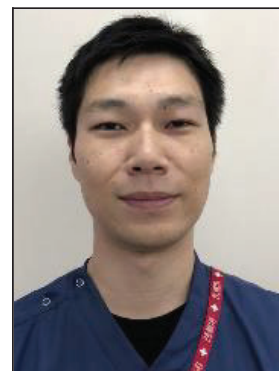


氏名 高野 利彦

都道府県士会 埼玉県

年齢 39

勤務先名称 熊谷総合病院



氏名 三宮 将一

都道府県士会 埼玉県

年齢 41

勤務先名称 赤心堂病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会役員歴】

2012年～現在 埼玉県理学療法士会北部ブロック熊谷エリア運営委員
2015年～2017年 埼玉県理学療法士会職能局地域包括ケア推進部 部員
2017年～現在 埼玉県理学療法士会職能局医療保険部 部長

【立候補の趣旨】

私は現在総合病院に勤務し、急性期～生活期のリハビリテーションに従事しております。また、小規模の一般病院や老人保健施設、専門学校の非常勤講師、私設勉強会団体の運営と講師、臨床実習指導者講習会ファシリテーター、熊谷市介護予防アドバイザー、埼玉県理学療法学会準備委員長、関東甲信越ブロック理学療法学会部長という経験も務めさせていただきました。県士会活動においては、新人の頃から参加者として参加し、その後運営委員、部員、部長としての立場も経験してきました。そのような経験の中から、現在理学療法士としていくつか達成していきたいことがあります。①各理学療法士の理学療法士として必要な知識、技術の水準の底上げ、②各施設の管理・運営体制の水準の底上げ、③養成校での教育と各施設での教育の連動の底上げです。これらの事は決して一人では成し遂げられないことですが、多くの方々とながら、それぞれの方の達成したいことと合致する部分を紡いでいくことで、実行していけるものと考えています。そのために、代議員という役割を務めさせていただき、これからの少子高齢社会における理学療法士の変化と進化、深化に挑んでいきたいと考えています。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会役員歴】

2014年～2015年 埼玉県理学療法士会 北部ブロック 熊谷エリア長
2017年～2018年 埼玉県理学療法士会 職能局 業務推進部長
2020年～現在 埼玉県理学療法士会 理事（広報局長）
2018年～現在 日本理学療法士協会 代議員（3期）

【立候補の趣旨】

この度、日本理学療法士協会代議員へ立候補をさせて頂きました。三宮（さんみや）と申します。日本理学療法士協会の会員は大半が20代から30代と若い世代にて構成されています。新たな理学療法士も年々増え続けています。その中で若い世代における様々な場面への登用を含めて技術の質のみならず、教育の充実や処遇改善も含めた働き方についての整備は急務となっています。今後訪れる超高齢化社会に向けて理学療法士としての新たな仕組みづくりも必要です。代議員の立場から皆さまのお手伝いが出来れば思い、今回の代議員選挙へ立候補を致しました。引き続き、皆さまの役に立たせて頂ければと思います。どうぞ、宜しくお願い致します。



氏名 高倉 保幸

都道府県士会 埼玉県

年齢 60

勤務先名称 埼玉医科大学保健医療学部



氏名 渡邊 雅恵

都道府県士会 埼玉県

年齢 56

勤務先名称 さいたま市立病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【日本理学療法士協会役員歴】

2011年～2022年、代議員
2010年～現在、がんリハビリテーション研修会運営部会長
2015年～2021年、旧がん理学療法部門運営幹事（代表）

【埼玉県理学療法士協会役員歴】

1999年～2001年、学術局研修部長
2001年～2005年、理事・学術局長
2003年～2007年、臨床実習教育部長
2003年～2007年、埼玉県理学療法士会学会評議委員会委員長
2011年～2015年、公益社団法人検討委員会委員長。

【立候補の趣旨】

上記のように学術・教育領域を中心に活動を行っています。昨年度、日本がん・リンパ浮腫理学療法学会の理事長となりましたので、今後の軸足を同学会の活動に移そうと考えて代議員の継続を中断しましたが、学術・教育活動では協会との連携が必須であり、協会の活動を続ける必要があると痛感しました。

本邦の理学療法士の人数は爆発的に増加し、社会に広く認知される職種になりました。一方、理学療法士の活躍する分野は広がり要求される知識が増えています。そのため、養成校の卒前教育だけは限界を感じています。協会の卒後教育システムは時代の流れに合わせて修正することが重要だと考えています。

協会の加入率が下がっており近年では会員から協会に加入するメリットを聞かれることが多くなりましたが、会員にとっては日々の臨床業務を支える学習システムが最も重要であると考えています。

協会の学習システムを今まで以上に臨床に役立つシステムに改変する必要があると思います。協会を社会に求められる理学療法士を育成する機関に育てていきたいと考えています。改めて代議員に立候補させていただきますので宜しくお願い致します。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

平成元～3年度 神奈川県理学療法士会 老人福祉部 部員
平成3～6年度 埼玉県理学療法士会 事業局 老人福祉部 部員
平成18～22年度 埼玉県理学療法士会 復職支援システム検討委員会委員長
平成23～26年度 埼玉県理学療法士会 理事（事業局長）
平成27～30年度、令和3年度～現在 埼玉県理学療法士会 理事（副会長）
平成28年～現在 日本理学療法士協会代議員
令和元年～現在 日本理学療法士協会代議員理学療法士労働環境委員

このたび代議員に立候補いたしました渡邊雅恵と申します。平成元年に理学療法士になり慢性期病院、がんセンター、整形外科クリニック、更生相談センター、療育センターを経験し現在は急性期病院に勤務しています。現病院では脳血管、運動器、がんリハの経験を得て周産期・小児専門の理学療法に従事しています。県士会の活動としては、平成18年に復職支援システム検討委員会が新たに開設され委員長に就任致しました。委員会では、臨床を離れている会員に対して復職のための研修会や全会員向けにメンタルヘルス研修会を開催しました。平成23年からは事業局長として高齢者福祉部、健康増進部、小児福祉部、スポーツリハビリテーション推進部を取りまとめさせていただき、埼玉県民や他団体に向けての公益的な研修会等を主におこなってまいりました。平成27年度より4年間は事業関係担当副会長として更に公営的な活動に関わらせていただきました。令和3年度からはブロック担当副会長となり県士会員の方々の横の繋がりが強化や他職種との連携について日々精進しております。代議員を4期経験させていただきましたが再度立候補させていただきます、協会から得た情報等を吸収し県士会で情報共有し、会員の協会離脱課題や県士会員組織強化について検討し、理学療法士の立場や県士会を更に発展させられるよう努力してまいりたいと思います。よろしく願いいたします。



氏名 菊地 裕美

都道府県士会 埼玉県

年齢 39

勤務先名称 医療法人社団愛友会 介護老人保健施設 一心館



氏名 木村 佳晶

都道府県士会 埼玉県

年齢 48

勤務先名称

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

私は埼玉県理学療法士会において、健康増進部をはじめ、地域包括推進部、災害対策委員会（委員長）を経て、現在、運営基盤検討委員会（委員長）組織運営担当理事として携わってきております。
理学療法士としてどのような役割を担えるのか、社会からの要求や期待以上の成果を導き出す方策（職域拡大）も含めて、組織的な取組が必要と考えております。
今も石川県での災害支援に入り、現場の状況を体感した上で、改めて理学療法士の強みを実感するとともに、様々な職種の方々との連携の大切さを身に染みめています。
そのような経験を生かした視点から、地域住民の暮らしに寄り添うこと信念に、皆さんと一緒に強い組織力のある理学療法士組織を目指したいと思いから立候補致しました。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

この度、（公社）日本理学療法士協会代議員選挙に立候補しました、木村佳晶です。
現在は、（公社）埼玉県理学療法士会理事をさせていただいております。
私は、公的保険以外の領域で活動をしています。主な業務としては、ヘルスケア領域に参入を考えているヘルステック企業の伴走支援、自治体の保健活動アドバイザー、起業家支援、医療介護事業所の運営支援です。様々な領域の方々と仕事をしていますが、理学療法士はもっと自分たちの領域を飛び越えて活躍するポテンシャルを持っています。自分たちだけの職域だけではなく、他の医療福祉職とも連携しながら、地域や自治体の健康福祉に貢献できる職域拡大モデルを協会が構築できればと考えています。



氏名 水田 宗達

都道府県士会 埼玉県

年齢 52

勤務先名称 埼玉県総合リハビリテーションセンター



氏名 原田 慎一

都道府県士会 埼玉県

年齢 50

勤務先名称 リハビリテーション天草病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会役員歴】

平成25年度～28年度 埼玉県理学療法士会事務局長
平成29年度～現在 埼玉県理学療法士会事務局長・副会長

【立候補の趣旨】

平成25年度から、埼玉県理学療法士会の事務局長および副会長として士会活動に参加させていただいております。県士会活動を通じて、埼玉県理学療法士会会員の皆さまからさまざまなご意見やご要望を直接伺う機会が多くあります。この経験を活かし、皆さまからの声をできるだけ正確に日本理学療法士協会へ届ける役割を担えと考え、今回立候補させていただきました。埼玉県理学療法士会会員の皆さまからいただいたご意見やご要望が日本理学療法士協会の運営に反映されるよう、誠心誠意尽力させていただきたいと思っておりますので、何卒宜しくお願い致します。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

平成29年～令和1年：埼玉県理学療法士会理事（広報局長）
令和2年～現在：埼玉県理学療法士会理事（事務局・広報局担当副会長）

私は上記のように士会活動に従事してまいりました。これまでの経験を通して、理学療法士に求められる役割が多岐に渡り協会と士会との連携がますます重要となっていることを痛感しております。今後も理学療法の発展に貢献すべく、代議員に立候補いたします。どうぞよろしくお願い致します。